



本格運用から1年を迎える岐阜県揖斐川町の「徳山ダム」で29日、「観光放流」が始まった。午前11時、ダムから流れ出した水が、白いうろこ模様を描きながら長さ約270メートルのコンクリート斜面を流れ落ちると「写真・竹内幹撮影、約1650人の観光客から「きれい」と声が上がった。(社会面に関連記事)

## 美しき水の力

### 徳山ダム、観光放流

観光客を増やそうと、同町が水資源機構に要請。二つの放水口から毎秒3・6トを放流した。ゴールデンウィークの5月25日にも午前11時と午後1時、3時に放流される。

徳山ダムは、国内最大の貯水量6億6000万トを誇る。計画公表から半世紀後の08年5月5日に本格運用を開始した。【鈴木敬子】

# きれいだ…でも、こみ上げる怒り

岐阜県揖斐川町の徳山ダムが本格運用を開始してから来月5日で1年を迎える。29日に観光放流が始まり、「大事な観光資源」（同町）としての活用が始まる一方、建設目的の一つだった利水はされていない。地元の旧徳山村村民が事業主体の水資源機構を訴えた訴訟も続いており、旧村民は複雑な思いで観光放流を見つめた。

【鈴木敬子】

## 徳山ダム 観光放流開始

ダム湖畔で昔の徳山 勤め、その大半でダム村を紹介する「徳山会館」の館長、長屋昭二さん(72)は観光放流を「きれいな模様だ」と見つめた。同時に機構への怒りもこみ上げてきた。「機構は管理所だけ置いて引き揚げてしまった」。機構などは、ダム上流域の山林を地権者から買い取って保護する約束をしたが、一部の土地は登記上の問題で進まず、棚上げされたままだ。

この1年、故郷をしのぶ場として造られた望郷広場をほぼ10日おきに訪れ、野山の風景を1000枚以上撮影した。会館には昨年、約10万人が訪れた。「ありがたいこと。古里に誰も寄りつかなくなるのは寂しいから」旧徳山村役場で40年

村職員時代には、移転の補償交渉で反対住民を説得した。「村民の苦勞を知らず、ただダムを見て『いいところや』』というの腹が立つ」。機構は、利水のために木曾川と長良川に水を流す導水路計画を進めているが、反対運動が起きている。

利水なく、続く訴訟 旧村民の思い複雑



徳山ダムを眺める長屋昭二さん  
一岐阜県揖斐川町の徳山会館で  
29日、竹内幹撮影